

災害科学国際研究所開所記念国際シンポジウム

巨大災害にどう向きあうか？

世界の経験と災害科学国際研究所への期待

世界中で発生する巨大災害に人類が立ち向かうにあたり、これまでの災害経験に学び、災害発生のメカニズムや災害の中での人間の行動、社会の動きなどを多角的にとらえることが必要となっている。新たに設置された東北大学災害科学国際研究所は、災害研究に対する世界のセンターとしての役割を發揮することが期待されている。本シンポジウムでは、日本と世界の著名な災害科学研究機関をお招きして、それぞれの機関における巨大災害への立ち向かい方についての報告をお願いした。これにより、経験と教訓と研究成果を共有し、災害科学研究のさらなる展開へのステップとしたい。

開催日：平成 24 年 5 月 23 日(水)

場所：トラストシティカンファレンス仙台（仙台トラストタワー）

<プログラム> 報告は英語（通訳付）

第 1 部 13:00-13:50

(1) 本シンポジウムの趣旨説明

今村文彦 教授（研究戦略担当副所長）

(2) 日本における巨大災害の経験と研究活動

東京大学地震研究所 小屋口剛博 所長

京都大学防災研究所 堀 智晴 副所長

岩手大学 広田純一 教授（前政府復興構想会議委員）

第 2 部 14:05-15:05

(3) 世界における巨大災害の経験と研究活動

清華大学 顧林生 公共安全研究所長（中国）

ハワイ大学 Denise Eby Konan 社会学部長（米国）

ドイツ航空宇宙センター・ドイツリモートセンシングデータセンター

Prof. Dr. Stefan Dech (ドイツ)

第 3 部 15:05-15:25

(4) 災害科学国際研究所の組織と今後の研究活動の決意、ロゴ紹介

今村文彦 教授（研究戦略担当副所長）

■申込先・問い合わせ先

メール conference@irides.tohoku.ac.jp

電話：022-795-4844（火、水、金、10:00～16:00）

FAX：022-795-4844